

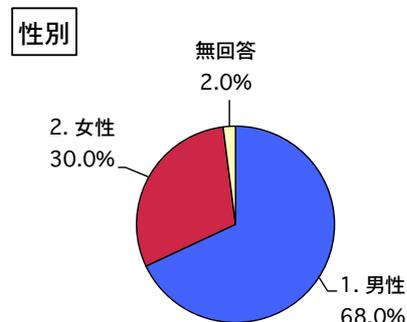
日本放射線影響学会 2020 年度 キャリアパス・男女共同参画アンケート集計結果

実施期間：2020 年 10 月 14 日～11 月 6 日 (Google フォームを利用し、Web 経由で実施)

有効回答数：50 件

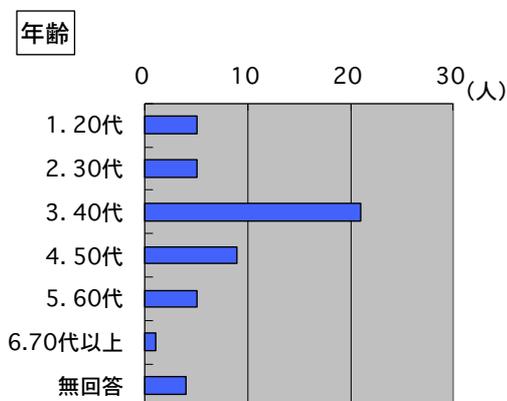
Q1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	34	68.0
2. 女性	15	30.0
無回答	1	2.0
計	50	



Q2) 年齢

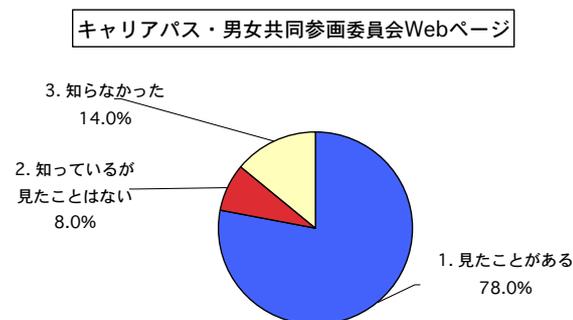
年齢	n	(%)
1. 20代	5	10.0
2. 30代	5	10.0
3. 40代	21	42.0
4. 50代	9	18.0
5. 60代	5	10.0
6. 70代以上	1	2.0
無回答	4	8.0
計	50	



Q3) キャリアパス・男女共同参画委員会 Web ページについて

(https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html)

キャリアパス・男女共同参画委員会Webページ	n	(%)
1. 見たことがある	39	78.0
2. 知っているが見たことはない	4	8.0
3. 知らなかった	7	14.0
計	50	

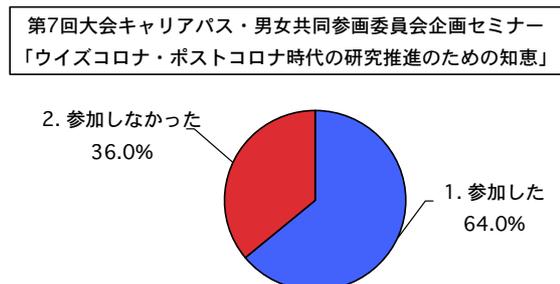


Q4) 第7回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

「ウイズコロナ・ポストコロナ時代の研究推進のための知恵」

(2020 年 10 月 14 日、オンライン (Zoom) 開催) への参加

第7回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「ウイズコロナ・ポストコロナ時代の研究推進のための知恵」	n	(%)
1. 参加した	32	64.0
2. 参加しなかった	18	36.0
計	50	



Q5) 第7回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「ウイズコロナ・ポストコロナ時代の研究推進のための知恵」の感想（自由回答）

セミナー全体を通して：

- ・非常に一体感のあるセミナーでした。
- ・よく準備されていたセミナーだったと思います。情報（というか個人の感想ですかね）の共有ができていればそれでよく、議論のはてに結論やら提言やらに結びつける場ではないでしょう。あれで十分であったと思います。
- ・他施設の詳しい事情を知ることができてよかった。
- ・委員会の活動紹介、アンケートの結果発表、グループディスカッションなどを通し、多くの参考になる情報が得られ、充実したひと時でした。グループのメンバーもバランスよく組まれており、相当なご配慮のもと、念入りなご準備をされたことと思います。グループの部屋からメインの部屋に戻った時に、司会のお2人が「皆さん、お帰りなさい」と優しく声をかけてくださったことに癒されました。
- ・事前アンケートのまとめ紹介があり、学会員の方の状況やお考えがわかり大変参考になりました。また、グループトークは大変よかったです。普段交流のない先生方とも知り合うことができたり、ざっくばらんに話ができ楽しい時間を過ごすことができました。
- ・オンラインでも十分な情報が得られ、全員参加型のグループセッションは意見を述べるハードルも低く有意義に感じた。
- ・コロナ禍で似たような悩みを抱えている研究者が数多いということが分かりました。また、現状をポジティブに捉えて研究を進めている研究者の思考を共有していただけたので、新たな視点から自分の研究を見つめる良い機会となりました。
- ・ポストコロナ時代において不安な点を相談・共有でき良かった。また、今後どのように工夫し、研究活動を進めていくべきかについて、様々な意見を聞くことができ、勉強になった。
- ・場所、立場、環境によりさまざまに異なる新型コロナウイルス感染症による自粛、規制の影響を伺うことができ、学生さんの就職、若手のキャリア形成への影響が最も憂慮され対策が必要だと思いました。
- ・緊急時における研究活動継続の在り方やラボの運営について考えさせられた。科学的な知見とは別に、人間には感染症を恐れる「恐怖」の感覚が脈々と受け継がれていることもまた事実であり、スタッフの一人一人の状況を加味してマネージメントして行くには大変な労力がかかかかる。その一方で、年度目標というゴールポストは動かさない。ラボ運営者の立場としては苦しい年となると改めて実感した。
- ・「コロナ時代の研究推進のための知恵」で、様々な場所の先生方からの意見が聞けて、日ごろ思っていたこと、困っていたことが、共有できて、大変参考になりました。zoomの会議でこれだけの意見が聞けることにも驚きでした。操作に慣れておらず、音声が出なかったハプニングがありました。今後もこういったセミナーがあれば参加したいです。企画、実施していただき、ありがとうございました。
- ・これまでに参加したZoomミーティングの中で、最高の企画でした。これまでのセミナーでも委員長の細谷先生のオーガナイズ力は際立っていましたが、初めてのオンライン開催でここまでできるのか、、、と感動しました。司会、進行も素晴らしく、参加者だけでなく、他の委員のこともうまく引き立てる細やかなお心遣いが感じられるリーダーシップを敬服しています。これから、自分が他の行事を企画する時に見習っていきたいと思います。

- ・とても楽しく勉強になった。交流の場になったことが、うれしかった。
- ・多くの先生方の若手への生の声を聞くことができ有意義な時間を過ごすことができた。
- ・とても良かったです。準備された方々に心から御礼申し上げます。
- ・いろいろな知識を勉強しましたので、すごくいいと思います。
- ・全体としては、とても有意義でした。

グループディスカッションが良かった：

- ・参加者全員による小班に分かれての議論はとても新鮮で、これまで話す機会がなかった先生とお話できたことなど、学会の活性化にも繋がるのではないかと思います。
- ・Zoomのブレイクアウトセッションを用いたグループディスカッションが特に新鮮で、学会でも挨拶程度しかしない先生方とも話ができるのと同時に、年代、地域、職種が違っているとコロナの影響が違った形で現れることがわかり、とても感じるものがありました。
- ・グループディスカッションは新鮮であった。
- ・Zoomのブレイクアウトルーム機能は初体験で、グループ内の方だけでもお顔を見て意見の交換ができたのは傍観になりがちなZoom開催での欠点を補えたと思います。
- ・Zoomの機能を生かして、少人数のグループディスカッションを行ったのは良かったと思います。
- ・オンラインでのグループディスカッションではシニア、中堅、若手の先生方が活発な意見交換ができてよかったと思います。
- ・学生からシニアの先生方とお話する機会が出来てとても貴重な経験ができました。
- ・話したことのない先生方とお話することができて有意義だった。学生の意見を聞いてもらったのがよかった。
- ・小グループに分かれての討論では、リーダーの方がうまく取りまとめてくださり、活発な議論ができました。
- ・グループディスカッションが面白かった。
- ・グループ討議が対面の雰囲気でもよかった。

グループディスカッションの時間がもう少し欲しかった、音声がかえなかった：

- ・グループディスカッションの時間がもう少し欲しかったと思います。
- ・途中で、一部の方々の声が、技術的な問題かで聞こえなかったのが、残念と思いました。
- ・操作に慣れておらず、音声が出なかったハプニングがありました。(再掲)

研究者も社会の一員であるという視点も重要：

- ・研究者といっても、社会の一員であり、緊急事態宣言における対応についてのまずは、社会の構成員であるという認識が乏しかった議論で合ったと思います。会社員、経営者、他の分野の学生(文系)であっても、同様に緊急事態宣言による不利益・不自由を受けています。研究者だけが特別、不利益受けたわけで無く、社会の構成員であると意識をまず持ってから、議論しないと、社会、公衆からの理解からは乖離していくと思います。コロナウイルスが収束した後でも、今後のセミナーでも研究者も社会を構成する一員であり、特別な存在で無いという視点をまず、企画者から示して、議論展開を行うことが重要だと思います。

残念ながら、参加できなかった：

- ・事前登録していましたが、急用ができてしまい残念ながら参加できませんでした
- ・残念ながら、他の会議と重なってしまいました。

Q6) 次回以降のキャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーの内容についての提案・要望
(自由回答)

今後も各年代の課題の共有を：

- ・各年代の研究者が一堂に集い、それぞれ年代特有の課題に関する解決策を共有できるこのセミナーの良さをぜひ続けていっていただきたいです。
- ・今回のように参加者全員が参加できる企画を、ぜひ、今後も採り入れていただけたら幸いです。

セミナーの開催形式について：

- ・対面だけでなく、今後もオンライン参加が選択肢にあると気軽に参加できるのでないかと感じた。
- ・オンラインで高名な先生をお呼びしてお話を聞いてみたい。
- ・引き続きグループディスカッションのような「交流の場」を提供されると良いと思います。年齢や身分にとらわれない、懇親会ではなかなかお話が聞けない者同士の交流ができてよかったです。
- ・若い方々と中堅、シニヤの方々の交流は大切と思います。
- ・若手、女性が中心となって司会をする。

セミナーで扱うテーマについて：

<キャリアパス関係>

- ・キャリア、ポストの開拓（今あるポストだけでなく、いかに新規を開拓するか）
- ・オンラインで参加できるようになった海外の研修、オンライン学会の上手な利用の仕方などポストコロナで以前と状況が変わったり、新たに活用できるようになったキャリア形成のチャンスなどの紹介をして頂ければうれしいです。
- ・学生が大学院に進学しなくなったのは、しばらく雇用情勢が良かったこともあるかと思いますが、博士取得後の進路選択が困難だというイメージがあることが原因と思っています。最近は大学の RA や省庁でも博士号取得者を採用する動きが出てきています。2020 年代のキャリアパスについて、企画してもらえると若手の参考になると思います。
- ・今年はコロナ禍ということもあり、本筋であるキャリアパスや男女共同参画についての内容が薄くなってしまったと思われる。特に、学生や若手の会員の皆様は、キャリアパスについて触れてほしいのではないだろうか。殊に、研究職に進んだ場合のリアルについて聞きたい事柄と思われる。給与、結婚、子育て、勤務地などなど様々な面についてのリアルを共有できると良いのではないだろうか？併せて、研究職（さらには理系職）の待遇改善につながる情報発信ともなれば良いかもしれない。
- ・ワークライフバランスに対する考え方・取り組み方、ご退官後の研究との関わり方、セカンドライフ、人脈の築き方など、皆様方のご意見・ご経験を拝聴したいと思います。

<男女共同参画・ワークライフバランス関係>

- ・今回と同様、グループディスカッションで、「女性研究者の働き方について。」
- ・資生堂など、男女共同参画の取り組みが進んでいる企業の担当者などを招聘して講演いただくのもよいかと思えます。

- ・研究を行う上で、実験や論文作成により、長時間又は不規則に職場にいることがあると思うが、ライフワークバランスをどのようにしているのかについて、研究者の方々から意見をお聞きしたい。
- ・ワークライフバランスに対する考え方・取り組み方、ご退官後の研究との関わり方・セカンドライフ、人脈の築き方など、皆様方のご意見・ご経験を拝聴したいと思います。（再掲）
- ・本当に共同参画は可能なかどうかを真剣に話し合う必要がないでしょうか？

学会へ期待したいこと：

- ・日本放射線影響学会として、放射線影響研究の各研究分野における社会的ニーズについて言及する会を定期的を開いていただけると、学会としての方向性を定める上で、あるいは他分野の現状を理解する上で役立つのではないかと思います。
- ・より情報共有ができたほうが良かったかもしれない点は、学会費用（参加費）についての不満が表面化したことに対する情報提供でしょうか。なんでキャリアパス委員会の活動でそれをやらなければならないのか、というのはありますが。何らかの場で学会の裏舞台について、会員との情報共有はあってしかるべきですね。あなたの払った参加費はこう使われましたと。

Q7) 第 64 回大会（2021 年 9 月 22 日～24 日、茨城で開催予定）での開催地での保育サービスの利用を必要とされる未就学児の人数（現地開催されると仮定してお答えください）

計 2 人

該当しない方からの自由回答：

「未就学児の子供はいるが、上の子が小学校なので、現地に行くことができない。
保育サービスは利用したいが、そもそも出張ができないため、残念である。」

Q8) 第 65 回大会（2022 年秋に大阪にて開催予定）での開催地での保育サービスの利用を必要とされる未就学児の人数（現地開催されると仮定してお答えください）

計 1 人

Q9) キャリアパス・男女共同参画委員会では、このたび、男女共同参画に関わる大会参加支援の 1 つとして、学術大会参加中に開催地における託児サービスを利用した学会員に対して費用の援助を行う「託児費用援助」制度を本学会に新設しました。託児に限らず、様々な事情やニーズを抱える会員の皆様が学会の活動により参加しやすくするためのアイデアやご提案があれば、ご入力ください。（自由回答）

大会参加時の託児支援について：

- ・託児費用援助だけでも大きな進歩であり、現状は十分であるように思う
- ・託児費用支援は良い取り組みであると思います。各大会事務局等の業務が大変になるかもしれませんが、大会ごとに現地の託児サービスを紹介できる体制とすることが望ましいと思います。
- ・全国ネットの託児組織が無いのが残念です。もしあれば託児を探す必要がなくなるのですが。
- ・子供の学会参加、懇親会参加ができるような仕組み。また、子供の世話をする両親や配偶者が同行したときに、学会会場に入れるように入場パスを出してもらえると嬉しい。

年次大会のオンライン開催の併用を：

- ・育児に限らず現地に赴けない会員向けにオンラインでも視聴できるシステムを構築して行くの良いかと思います。
- ・現地開催とオンライン開催の両方を採り入れた大会の開催は、育児中・介護中に限らず、様々な事情で現地に出向けない会員の参加を促すことにつながると思います。
- ・援助があってもどうしても大会に参加できない会員のために、大会の Web 併用を進めてほしいです。
- ・今後、学会がオンサイトで開催される場合であっても、オンラインにも対応した学会運営をされると、様々な事情で遠方まで出張できないようなケースでも、最新の研究情報を得ることができ、良いと思います。
- ・コロナ禍が原因となり導入された web 学会システムですが、コロナ禍が落ち着いた後も継続して運用していただきたいです。研究費の節約やリアルタイムで学会参加が叶わない研究者に対しての支援となると思います。
- ・ウェブベースの参加がよりよいものになるように工夫を。海外の学会では、Meet the professor とか、グラント情報共有セッションとか、いろいろあるようです。パクったらよい。

その他：

- ・例えば、産休・育休などによるキャリアの中断後、復帰するときの支援（研究復帰一時金？）を学会としてもできたらいいのかと思いました。
- ・小学生の親へのハウスキーパー派遣

Q11) キャリアパス・男女共同参画に関する意見（自由回答）

現在の委員会について：

- ・委員会の中に大会関係者や若手の委員を積極的に登用されており、人選が素晴らしいと感じました。セミナーの中でも、それぞれのメンバーが生き生きとご自身の役割を果たしたことに感銘を受けました。今後も委員会内外の多くの学会員がこの活動に協力をし、ますます発展していくことを祈っております。
- ・この活動が継続するように、現在の委員会のメンバーのように若手の先生方を積極的に委員に入れていただき、運営を長く続けていただきたい。
- ・困ったことに相談できる活動がすばらしい。
- ・今後も積極的な活動を期待しております。

セミナーへの期待：

- ・コロナ禍で様々な困難があった中、素晴らしいオンラインセミナーを企画、準備いただき、本当にありがとうございました。今後の委員会の活動にも期待しております。
- ・コロナで困難な中のセミナーの企画・開催の労を取っていただいたことに感謝申し上げます。
- ・大変参考になるセミナーのご企画・運営、誠にありがとうございました。今後もキャリアパス・男女共同参画委員会のセミナーを楽しみにしております。
- ・興味深い企画ありがとうございました。次回も楽しみにしております。
- ・新しい試みも取り入れ、今後とも参加したくなるようなセミナーを企画して欲しい。
- ・今回のセミナーには都合が合わず参加できなかったのですが、後日、HP などで報告が掲載されるのを楽しみにしております。

今後の活動についての要望：

- ・今後もさまざまな年代、性別が抱える問題、その間の問題についてフォーカスして行っていただきたいと思います。
- ・日本だけでなく、諸外国の例を参考にすることも(特に男女共同参画)、良いのではと思いました。
- ・RRSでも女性研究者の活動が活発化しています。コロナ終息後にコラボ企画などを行ってもよいかもかもしれません。
- ・共同研究相談や進路相談ができるマッチングサイトのような研究者の交流支援があると良いかと思います。特に現状のように学会で自由に会う機会が失われているので。
- ・このアンケートのほとんどが子供に関するものです。独身の男性も女性も、子供のいない夫婦も、どの人も性別や立場等にとらわれずに社会活動に参画するのが男女共同参画の趣旨と思っていましたが、この手のアンケートを見るたびに、独身で子供のいない私には用のないものだと感じ、学会の男女共同参画への関心が薄れます。育児は大変なのは当然ですので、その方を支援するのが目的なら男女共同などと言わず、子供のいる人への支援とする方が妥当と思います。

国や文科省などへの提言や発信：

- ・会員からの要望や提言をまとめて、国会議員や文科省に伝えるなどの活動はどうでしょうか。自分たちだけでぶつぶつ言っても埒が明かない問題が多い。最後は政治でしょう。
- ・日本の社会経済状況、歴史的な背景と考え方などを考慮し、欧米からの輸入や声の大きな団体の意見などのステレオタイプではない、実現可能あるいは妥協可能なレベルでの発信ができると良いかと思います。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の大会でのセミナーの企画、様々な事情やニーズを有する会員への支援のあり方の検討など、今後の委員会の活動に生かしていくとともに、当委員会だけでなく、理事会でも共有させていただきます。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本放射線影響学会
キャリアパス・男女共同参画委員会